

診断京都

No.86
2007年 冬号



社団法人 中小企業診断協会京都支部

近畿ブロック交流会を、 新年1月26～27日に開催

平成20年1月、京都支部が幹事役となり、診断協会近畿ブロック（福井、滋賀、京都、大阪、奈良、兵庫、和歌山の7支部で構成）の交流会が開催されます。

主な内容は、

- ①地域活性化等と診断士に期待される役割等についての勉強会（京都学園大学にて）
- ②懇親会
- ③公益法人制度の見直しに伴う、診断協会の方向性についての意見・情報交換会

となっています。なお、詳細日程等については、支部ホームページをご参照ください。

〈近畿ブロック交流会の源流と歴史〉

平成12年の中小企業指導法の大幅改定に伴い、中小企業診断士制度の廃止が一部でさやかれ始めた。その際ある団体が中小企業診断士の必要性を大々的にアピールしたことで、同制度の存続が決まった。

診断協会としても、診断士の活躍を対外的に強力にアピールしようということになった。それを受けて近畿ブロックでは、診断士が関わった経営革新事例の発表会をやろうということになり、平成15年6月、大阪で第1回の「経営革新による成功企業の事例発表会」が開催され、京都支部の中路会員が見事優勝し診断協会会長賞を獲得した。

発表会後の反省会のおり、今後は、大阪・京都・兵庫の各支部が持ち回りで幹事を務めることが決まり、翌16年9月3日は京都支部が幹事役となり、第2回の発表会を行った。当時の安田支部長を筆頭にプロジェクトチームを結成し、全力で事に当たったことが奏功し、前年を上回る大盛況となった。近畿経済産業局局長賞には兵庫県支部の穴田氏が、診断協会会長賞には滋賀県支部の鐘井氏が、それぞれ選ばれた。このとき発行した事例集には、当支部西河会員と坂田（岳）会員の事例が掲載されている。

その後、兵庫県支部（17年）、大阪支部（18年）と続くのであるが、準備の大変さもあって、昨年はシンポジウム形式に変更された。平成19年度は京都支部がホスト役を務める番であるが、4月の近畿ブロック会議において、今年は「交流会のようなもの」にしようということで合意がなされた。そして、6月に開催された平成19年度第1回近畿ブロック会議で「京都支部を幹事役とする交流会を開催する」ことが正式に決定され、今日に至っている。（山脇康彦）

平成19年度近畿ブロック事務連絡会議 10月2日に和歌山で開催

今年の近畿ブロック事務連絡会議は、和歌山城を望む東急イン和歌山にて開催されました。本部から米村会長や樺山事業部長ほかを迎えて、近畿の2府5件から正副支部長ほか多数が参加しました。

主な議題としては、本部からの①実務従事事業の実施状況についての報告及び診断士へのアンケート調査の中間集計結果、②9月から稼働した新情報システムの状況、③診断協会の公益法人問題への取組、④人材育成事業、⑤その他について取り上げられました。

①については、アンケート調査に基づいて実務認定要件の拡大及び緩和を、困難を承知の上で中小企業庁に働き掛けていることが報告されました。②については、稼働1ヶ月間でのトラブルはないこと、ユーザ診断士からの要望を取り入れて、より使いやすいシステムにするための改善を実施していることの説明がありました。③では、公益社団法人の道を選ぶか、一般社団法人でいくかについて、結論はまだ先のこととして、各支部参加者から活発な意見交換がなされました。④は、プロフェッショナル診断士としての人材育成への取組がなされていることの簡単な資料提示があり、⑤については、個人情報保護法対応の教育に関する取組、エステティックサロンの認証制度への取組が動き出すこと、11月16日に開催の「中小企業経営診断シンポジウム」等の説明がありました。

その後、各支部からの活動報告がなされましたが、兵庫県支部の活発なビジネス追求活動と、大阪支部の新情報システム活用記事を会報誌に掲載して会員のシステム利用を促進する計画が印象的でした。また、今回は中小企業基盤整備機構近畿支部長が参加され、中小機構近畿支部の活動紹介がありました。



平成19年度 診断実務従事事業

2007年度診断実務従事事業は下記の4社で実施されました。

- 宇治市T社（電気工業業）
- 京都市B社（和装商品販売業）
- 京都市K社（機械販売商社）
- 福知山市K社（機械製造業）

今回の参加人数は、合計で11名でした。リーダーは、宇治市T社及び京都市K社は西河、京都市B社は成岡、福知山市K社は伊東の各氏が担当しました。

10月に参加メンバーによる事前打合せ会議を支部事務所で開催して、11月より各チームごとに診断実務に入りました。

事前に各企業より資料を入手し、参加メンバーに配布。それを読み込んだ上で、まずは第1回のヒアリングに入りました。当日は、先方の代表者と担当者に出席いただき、約2時間かけて業況の説明、会社の現状、問題点、課題、今後の方向などを伺いました。

当方からは、事前の予習に添って種々の質問をさせていただきます。時間的に制約のあるなかで、完璧にカバーすることは不可能ですが、とりあえず可能な限りの情報を入手してヒアリングは終了しました。初回は、そのヒア

ングのあと、当日の総括と今後の段取り、業務の分担などを打合せしました。

その後数回の情報交換、メールのやりとり、ドラフトの共有などを行い、中間で一度会議を持ち、そこで報告書の基本方針のすりあわせを行います。報告書の分担はしていますが、それぞれの方向性がばらばらではいけません。しっかりベクトルを合わせておくことが重要です。

具体的な報告書の内容は、リーダーがとりまとめプレゼンテーションができる形に仕上げます。各自が分担した内容の整合性が取れるように、かつ、論旨が一貫しているように配慮しました。また、先方から特にこういう点を重点的に診断して欲しいと注文のついた箇所に関しては、取り分け注意して内容を吟味しました。

そして、最終のプレゼンテーションの当日は、協会の事務所に集合し、内容の再確認と補足説明の段取り、一連の手順の確認を行いました。

実際の先方へのプレゼンテーションは1時間くらいです。その後、企業側の参加者からいろいろと鋭い質問があったり、非常に答えにくい内容の質問が出たり、それは本当に真剣勝負の場です。約1時間くらいの質疑応答の中で、さらに課題や解決の方向性も次第に明確になりました。非常に喜んでいただいた報告会でした。（成岡秀夫）

平成19年度理論政策更新研修を9月と10月に開催！

中小企業診断協会京都支部主催の平成19年度理論政策更新研修は、9月8日（土）及び10月28日（日）の2回に亘って、ばるるプラザ京都（現メルパルク京都 京都駅前）にて行われました。

両日とも100名を超える参加があり、会場は満席となりました。昨年同様、他府県からの参加者も多くみられました。

9月8日（土）の研修では、前半を京都府商工会連合会の植松光隆経営支援部長に「新しい中小企業の施策とその事例研究」というテーマで小規模事業者を対象とした施策の説明や商工会・商工会議所との連携等について御講演いただきました。

後半は、京都支部会員の玉垣勲前支部長が、「企業再生のための新たな診断手法とその応用事例」と題して、数多くの事例を織り交ぜながら論を展開しました。

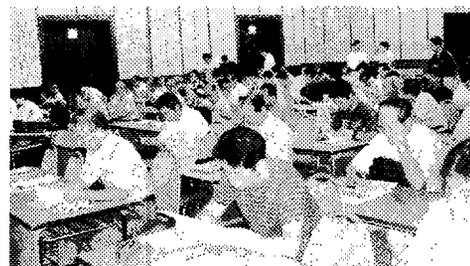
一方10月28日（日）の研修では、前半を京都産業21の坂本悦二統合審議役に「新しい中小企業の施策とその事例研究」というテーマで、京都産業21が展開している数多くの支援事業を体系的に御講演いただきました。

後半では、京都支部会員の成岡秀夫常任理事が、「事業承継とその事例」と題して自ら支援している多くの具体的な事例を紹介しました。

両日とも中小企業診断士が業務上不可欠な内容ばかりで、参加者は各講義に熱心に聞き入りました。また、各回終了前には、成岡常任理事による「診断実務従事事業」に関する情報提供がありました。（藤井明登）

理論施策更新研修日程

| 月 | 日 | 曜 | 時間 | 研修 時間 | 科目 | 講師 |
|----|----|---|-------------|----------|------------------------|------------------------------|
| 9 | 8 | 土 | 13:00~15:00 | 2 | 新しい中小企業の施策とその事例研究 | 京都府商工会連合会 経営支援部長 植松光隆氏 |
| | | | 15:00~17:00 | 2 | 企業再生のための新たな診断手法とその応用事例 | 京都支部会員 玉垣 勲氏 |
| 10 | 28 | 日 | 13:00~15:00 | 2 | 新しい中小企業の施策とその事例研究 | 京都産業21 統合審議役 坂本悦二氏 |
| | | | 15:00~17:00 | 2 | 事業承継とその事例 | 京都支部会員 成岡秀夫氏 |



京都商工会議所の「早期転換・再挑戦支援窓口事業」への取組

上田 清

上記の事業に関連して、京都商工会議所から中小企業診断協会京都支部に対し、

- ①再起業しようとする廃業経験者
- ②事業が立ち行かなく前の段階にある中小企業者

に対する再起業及び事業の撤退・転換に関するアドバイス、並びにサポート業務をお願いしたいとの要請をいただきました。京都支部会員メーリングリストにて登録員を公募した結果、西河豊氏、恩村政雄氏、今井俊和氏、及び事務局兼責任者として上田清が担当することになりました。

平成19年11月30日に京都支部山崎支部長と一緒に登録者全員が、京都商工会議所中小企業経営相談センター山田副所長を訪問しました。ご挨拶の席上、今後も中小企業診断協会京都支部が様々な商工会議所事業に関わって尽力できる機会があるのではないかとのお話もありました。中小企業診断士の活躍の場をさらに広げられるのではないかと期待されるとともに、専門家集団としてのスキル向上に会員診断士個々の取組が重要になってきています。

2007年度京都学園大学「仕事研究講座」講師の感想

藤井 健志



10月17日、京都学園大学「仕事研究講座」の3番バッターとして広告業界について講義する機会をいただきました。この講座は全11回シリーズで経済学部2年生を対象に入社後のミスマッチをなくすことを意図して、各業界の紹介を講義形式で行うものでした。

当日は半日休暇を取って、JRで亀岡駅まで、そしてバスに乗ってのどかな田園風景の中を学園大学まで、生徒達の中に混じってはじめて緑豊かなキャンパスに足を踏み入れました。事前の少しの打ち合わせ後、担当の西藤先生に教室までご案内いただき、まだ始業の時間まで少し間があったので、前の席から見上げて座っている学生達の数を数えました。約70名。事前に作成・配布した共通フォーマットのテキストに基づいて、広告業界の概況、実際の仕事として日常どんなことをやっているか、そして将来の展望

などを語り、最後にまとめ・気づきなどを記入するレポートを提出してもらうというシステムです。

提出されたレポートは114枚ありました。学生さん達は、途中で入室する人がいて多少気になりましたが、事前に聞いていたのとは異なり、まじめに真剣に耳を傾けていました。

レポートのレベルは様々です。振り返れば久しぶりに教壇に立ったためか、一人ひとりの学生たちの表情を見ながら、語りかけることができなかつたことが残念でした。どんな学生がいたか、余り思い出せないのです。90分という短い出会いであるが、シンクロする時間を生み出していきたいものです。

京都学園大学様との取組について

山脇 康彦



京都支部では、平成17年度から、京都学園大学経済学部2年生を対象とした「仕事研究講座(後期2単位)」という授業を受託しています。主たる目的は2つで、一つは、大学2年生の「就職意識を高めること(ぱーっとしてたら、あかんで)」で、二つ目は、様々な業界の現状と将来、並びにそれらの業界で、入社間もない大卒生がどのような仕事をしているかを紹介する(予備知識を提供する)ことで、就職後の、いわゆるミスマッチによる早期離職・退職を防ぐことです。

講座は毎年、マイナーチェンジを行っており、本年は、業界として、新たに広告業界(本号、藤井健志会員の感想をご参照ください)を加えるとともに、本講座初の試みとしてビデオを使った講義(業界は製造業で、講師は藤原茂寿会員)を導入しました。どちらも、好評のうちに、終始しました。

ちなみに、ご担当いただいている西藤二郎教授のお話によると、本講座に対する学生さんの評価は高く、毎年、「今年受講した全教科の中で、良かった講座」の上位にランキングされているそうです。本年も勿論…。これまで講師を務めていただいた支部会員の皆様へ、この場を借りて、改めて厚く御礼申し上げます。

ところで、本年度、当該講座とは別に、平成19年度中小企業診断協会近畿ブロックの交流会実施に向けて、会場の貸し出しと講演のご協力をお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。

支部単位で大学とこうした種々の取組をしているのは例がないと思います。今後に向けて、大学と診断協会における産学連携の一つのモデルケースに育ってくれればと思います。

京都商工会議所 経営指導員研修への講師派遣

今年度も京都商工会議所からの依頼で、経営指導員の方々への指導員研修の講師を下記の6名の方に担当いただきました。

- 第1回 8月17日10:00～13:00
マーケティングの基礎
藤井 明登
- 第2回 8月17日14:00～17:00
経営資源の見方・企業分析の基礎
恩村 正雄
- 第3回 10月4日10:00～13:00
創業支援(飲食業、小売業、サービス業など)
伊東 伸
- 第4回 10月19日10:00～13:00
経営革新支援(製造業系企業)
成岡 秀夫
- 第5回 10月19日14:00～17:00
ビジネスプランの作成支援
西河 豊
- 第6回 11月13日10:00～13:00
店舗管理の基礎知識(商店、飲食業、小売業)
横倉 幸司

今回、支部のメーリングリストで派遣講師を公募いたしましたところ、多くのエントリーをいただきました。支部の三役及び組合専務にて協議の結果、上記の6名の方をお願いすることとしました。今年度は、特に経営指

導員の方向けに実際の経営指導の支援実例を多く取り入れて欲しいとの強い要望があり、経験を多くお持ちの方をお願いすることになりました。

また、今回初めての試みとして、2名以内限定で支部の会員診断士の方にもオブザーバー参加を認めることとなり、毎回2名の診断士の方が聴講されました。会場は商工会議所本所の教室で行われ、通算平均して20名前後の経営指導員の方が受講されました。

経営指導員の方々には、いろいろな経歴をお持ちの方が多く経営指導という意味では多分野の知識が要求され、その守備範囲は非常に多岐にわたります。そのため、自分の経験がない、または経験の少ない分野・カテゴリーの知識や実践事例を基にした講義が非常に重要です。その意味でも、今回は毎回にわたり多くの事例を加えて、現場の実例に基づいた非常に実践的な内容になりました。

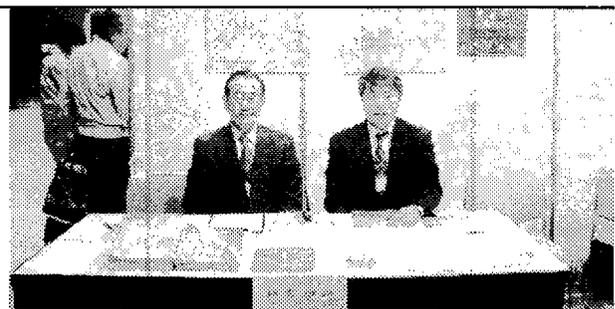
受講後のアンケートを見ても、非常に好評であったことがうかがえます。難点は、あまり多くの内容を欲張りすぎて、時間が少なかったという指摘もありました。来年度も、同じ事業があるかどうかは分かりませんが、経営指導員の方への研修という非常に意味のある事業ですので、ぜひ、機会があれば継続していきたいと思っています。(成岡秀夫)



無料経営相談会を実施

「2007全国異業種交流・新連携フォーラムin京都」が次のように開催され、中小企業診断協会京都支部もブース出展して、中小企業診断士と中小企業診断協会の広報を行ない、同時に無料経営相談会を実施しました。

- 日時：平成19年10月19日
- 場所：国立京都国際会館イベントホール
- 主催：中小機構近畿支部、京都府異業種交流会連絡会議、(財)京都産業21ほか
- 規模：出展ブース=企業78、異業種グループ・団体27、大学19、金融機関5、支援機関9、計138
- 内容：ブース出展者交流会のほか、株式会社トーセ社長齊藤茂氏の基調講演、3つのパネルディスカッション、夜には情報交流会を催し、府県域を越えた広域交流の場、企業または異業種交流グループ・団体と大学との出会いの場を創出し、異業種交流や新連携・産学連携への取り組みがされた。



当支部は、入口に近い好立地にブースを構え、中小企業診断協会京都支部と京都府中小企業診断士会のパネルを掲げ、カウンターには配布用の中小企業診断士と診断協会のパンフレット、また、「経営相談受付中」の表示をしました。当日前半の担当相談員は清澤康弘会員、安田徹、後半は山脇副支部長、坂田慎一会員が担当しました。経営相談自体は少なかったものの、午前中には京都府商工部長、京都市支援センター部長、中央会の事務局長、基盤整備機構の部長との交流の中で来年度事業についての要請もありました。また、午後にはKSR認証の第三者機関から連携の希望、木材組合等からの勉強会開催についての要請もあり、それなりの出展成果があったと考えています。(安田 徹)

大学発ベンチャーに対する 企業診断の可能性

上 島 政 樹



本年の9月3日に経済産業省より平成18年度大学発ベンチャーに関する基礎調査結果が発表された。

それによると、大学発ベンチャー数は、平成18年度末時点で1590社が活動している。これによる経済効果は、売上高は約2800億円、雇用者数は1.8万人としている。1社当たりの売上高は1億77百万円である。

業種構成は、バイオ系が全体の約4割と最も多く、次いでIT(ソフト系)が約3割を占めている。しかし、これらはシェアを落としており、第3位の機械・装置系がシェアを伸ばしている。

事業段階の動向は、研究開発段階が約49%、事業段階が約51%で、事業段階が半数を上回っている。特にバイオ系では事業段階が前年度の約39%から約47%と大幅に増加した。

単年度黒字・累積損失なしは約2割と低い。業種別では、IT系が約3割と平均より多い。

大学発ベンチャーが、直面する課題としては、人材の確保・育成が最も多く、次いで販路開拓・顧客の確保、資金調達の確保と続いている。これらの課題は大学発ベンチャーの特性である次の2点になる。一つは技術に起因する脆弱性で、新規性が高く、シーズに近い研究成果を基に事業を行っていること、二つ目は人材に起因する脆弱性で、大学教員等の経営経験の乏しい人材が経営者に就く機会が多い点にある。ちなみに大学教員や学生等が大学発ベンチャーの経営者となる例が約5割あり、事業段階に応じて経営者の交代を意図している大学発ベンチャーは全体の約8割あるものの、実際に経営者を交代したのは全体の約4分の1である。

経営者を補完する右腕を活用しているのは約6割であり、一般の中小企業では生産・製造や財務・経理を担当する場合が多いことと比べ、大学発ベンチャーでは研究開発を担当している例が最も多い。

大学発ベンチャーは基礎研究の成果を元に事

業が始められることが多く、製品化までのリードタイムが長いといった経営面や技術面でのリスクも高い。このためベンチャーキャピタル等からの資金調達も困難である。特に、バイオ系の大学発ベンチャーは、長い研究開発期間が必要であり、また、研究開発そのものに係る費用も大きいため、研究開発途中での資金不足感も強い。

初期段階の資金調達は極めて厳しく、ベンチャーキャピタルによる投資も設立投資は金額ベースで2.3%となっている。また、資金調達先は、自己資金や親兄弟・親族、友人知己の者からが多くを占めている。大学発ベンチャーは他では行われていない研究開発の成果をベースに新規に創出する市場をターゲットとするケースが多い。顧客側が実績や知名度を優先する傾向が強い我が国では、販路の確保が課題となっている。

大学発ベンチャーが製造・販売する製品等の約8割がビジネス向けであり、調達の対象とはなりにくいケースもある。販路開拓においては、研究を通じた人脈や関係企業を通じた紹介が多い。

以上が大学発ベンチャーの実態であるが、これらの企業は大半が技術指向型である。技術には強いが、財務管理、マーケティング、人事管理には弱い傾向がある。

従って、これらの部門には、診断する余地が大いにあり、また、診断を希望する企業も多いと思われる。ただ、資金調達が弱いのと、赤字企業が多いため、殆どの企業が診断料の支払い能力がないと思われる。しかし、将来性はきわめて高く、数年後には黒字に転換する企業が多々発生する可能性が高い。

よって、企業診断をすれば、黒字になるまでは無料診断を行い、黒字になった時点で有料にするのが妥当と考える。 以上

はんなり企業内診断士

小林 康夫
(こばやし やすお)

勤務先
長岡京市商工会 経営指導員



・中小企業診断士になったきっかけ

『独立したい』とか、『資格取得してこれがしたい』とかという高尚なきっかけはない。しかし、会社に頼らず自分の武器を持ちたいとは常日頃思っていた。

中小企業診断士の資格を知ったのは、社会人13~4年目の頃、資産流動化関連の仕事をした時だった。金融関係の仕事をしてきたので、企業を見る目はあるつもりでいたが、自分は遅れていることに気がついたのだ。

一緒に仕事をした方が、取引先に「ポジショニング・マップ」で説得力ある話をする姿をみた。私はその言葉を聞いたこともなかった。その方は、診断士資格を勉強していて知ったというのである。知識の浅さを知ったことがこの資格を知り、資格取得を目指した。

・普段の仕事

会員企業の経営相談、セミナーの開催、地域振興事業として地域PRになるような催し事をしている。最近、地域の潜在力を高めるため、地域ブランドを創ろうと会員企業と共に日夜奔走している。工作上、公益的な活動が多いが、各々の事業において、目的・価値観を共有することが如何に難しいか痛感している。目指すところは皆おなじであっても、手段の違いや取組内容の温度差がある。

融資相談や税務相談など個別企業にとってすぐに答えの出るものではなく、市場での価値が計れないことや将来に渡って効果がでてくる、いわゆる外部効果を進めるうえで、如何にして地域のコンセンサスを得ていくのが現在の課題だ。

・仕事上でのモットー

個として付き合える人間になること。仕事をする上で、組織上と個人の付き合いの境はあるようでない様に思う。立場上守らなければならないことはあるが、相手と胸襟を開き誠実に付き合い合えば、分って貰えるはずである。分ってもらえなければ、相手と個として認められてなかった、付き合い方が悪かったと自分に言い聞かせている。

・現在夢中になっていること

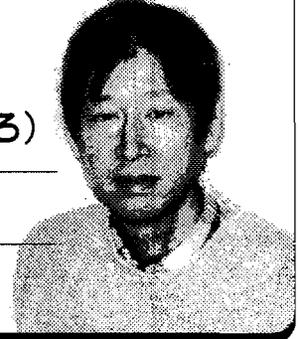
体脂肪率を減らすこと。フィットネス・ジムに通って目下トレーニングに夢中。11%まで落ちた。目標7%。

・今現在一番したいこと

麻雀(弱いですが…)

藤村 正弘
(ふじむら まさひろ)

勤務先
ローム株式会社



社会人となって以来ずっと民間企業勤務を続けてきたものの、雇用や年金など社会環境が急激に不透明になりつつある中で、自分にとって武器となる能力は何か、それがどのような形で表わしうるのか、と考えていた2年前の秋、書店でふと目にした通信講座のパンフレットが診断士になろうとしたきっかけでした。すでに講座は始まっており、診断士とは何かを詳しく調べる間もなく、ひたすら教材と格闘し、運よく合格したものの、明確な業務スパンが見えず、合格後の実務補習や勉強会を通じて、おぼろげながらようやく診断士業務の輪郭がつかめてきた、というのが正直なところでは。

現在経理を担当しており、勤務先では残念ながら診断士の知識を活かす機会もなく、企業内診断士と名乗る資格さえないような気がしますが、自分の中では何か新しい世界が開けたような感覚(錯覚?)にとらわれている今日この頃です。

京都生まれ京都有ちですので、将来この世界に本格的に足を踏み入れて、中小企業の方々と手を携え、京都という土地で地元の活性化に貢献したいという理想を思い描く一方で、実務従事ポイントをどうやって獲得するかという現実に頭を悩ませる日々でもあります。

また、診断士をとりまく環境を見てみますと、他士業の制度改革や規制緩和などにもなって、いわゆる業際がますます混沌としてきているように思えます。したがって、あらゆるパワーを結集して診断士のブランド価値を高め、勝ち残っていくことが大切であり、私自身も微力ながらなんらかの形で貢献できたらと思っています。

当面は、勉強会や行事にも積極的に参加して、まず足元を固める所存ですので、京都支部諸先輩の皆様、今後ともご指導よろしく願いいたします。

また同じ企業内診断士の方とも情報交換ができれば、と考えておりますので、重ねてよろしく願いいたします。

●●●●● マスターセンター調査研究事業の経過報告 ●●●●●



京都支部では毎年、マスターセンター調査研究事業を実施しています。平成17年度は「日本農業の活性化へ」、平成18年度は「医療機関の情報管理に関する調査研究」、そして平成19年度は「リレーションシップバンキングと中小企業の事業再生」というテーマです。

上場企業の業績回復が鮮明になる一方で、地域の中小企業の現状を見ると、業績回復はまだ模様で2006年度の倒産件数も前年比で増加しており、負債総額の少ない中小規模の企業倒産が増加していることが推測できる結果になっています。そのような中で、私たち中小企業診断士が活躍できるひとつのフィールドとして、中小企業の事業再生というものがあるにもかかわらず、京都においてもまだまだその存在感をアピールできるところには至っていません。

今年度のテーマを選定した理由は、そのような背景を踏まえて、私たち中小企業診断士が地域中小企業の再生・経営改善の分野でお役に立つために、現状の金融機関の対応状況などを調査し、新たなフィールドを見出したいという想いがあったためです。

京都を中心に、滋賀・大阪・兵庫の地銀・信金・信組の支店長や融資担当者の方にアンケート調査をお願いし、71通の回答をいただくことができました。当原稿執筆時では、アンケートの集計がほぼ終わり、分析を行っている最中です。また、京都信用保証協会や国民生活金融公庫には実際に訪問し、事業再生への取組状況などについてヒアリングさせていただく予定になっています。

具体的な研究成果を発表できる段階ではありませんが、この調査事業が中小企業の事業再生・経営改善の分野において、私たち京都支部の存在感をアピールできるひとつのきっかけになればと思っています。

詳しい成果報告は、平成20年1月18日(金)に行われます京都支部の新年会セミナーにて皆さまに報告させていただきますので、ぜひご参加下さい。(岡原慶高)

●●●●● 経営革新支援研究会開催報告 ●●●●●

今年度の経営革新支援研究会は新たなメンバーで企画・運営することになりました。実質的には平成19年8月から新企画で動いています。今年度の研究会は、「旬の情報をいち早く提供する」というコンセプトで運営しています。現在までの研究会開催状況は以下の通りです。

■8月度■

テーマ：「執筆のノウハウ大公開！」

講師：坂田岳史氏(支部会員)

概要：単著・共著併せて13冊の出版、及び多数の雑誌原稿を執筆した経験をお持ちの講師より、原稿の書き方、印税の貰い方、出版の方法など実例を中心に執筆のノウハウを惜しみなく公開していただきました。また、参加者には講師が執筆した最新作「図解でわかる会社のしくみ」(日本実業出版社)を進呈していただきました。

■9月度■

テーマ：「個人情報保護法のあらまし」

講師：木津要三氏(支部会員)

概要：中小企業診断士向けの支援要領の作成を目標に十数回の研究会を重ねた個人情報保護研究会から研究発表をしていただきました。ビデオ鑑賞にて再度個人情報保護の大切さを学び、その後個人情報保護研究会で作成されました指導要領についてご説明いただきました。

■10月度■

テーマ：「介護施設の経営コンサルティング」(山下氏)
「担保が無くてもお金は借りられる？」
(現役金融マン氏)

講師：山下泰功氏(支部会員)、某金融機関勤務の現役金融マン氏(支部会員)

概要：おふたりの企業内で活躍の支部会員から日頃の仕事に密着した実務に即したお話をいただきました。「介護施設の経営コンサルティング」では、人事制度の導入や業務改善に関する進め方や市場環境などについて、「担保が無くてもお金は借りられる？」では、責任共有制度導入後の融資状況や金融機関がどんな観点で中小企業を見ているのかなどについてお話いただきました。

■11月度■

テーマ：「90分でわかる地域資源活用プログラムの活用方法」

講師：中小企業診断士 樽谷昌彦氏
(中小機構プロジェクトマネージャー)

概要：各地域の「強み」である産地の技術、地域の農林水産品、観光資源等の地域資源を活用して新商品開発等を行う中小企業を支援する施策が平成19年度に新設されました。その制度の概要と承認事例などについて具体的にお話いただきました。

12月度は「セカンドライフ実演講座 最新メディア<仮想空間ビジネス>とは!？」というテーマで専門家の方に講師をお願いしています。今後も引き続き、支部会員の皆さまへ中小企業診断士として知っておきたい最新情報をできるだけタイムリーにお伝えできる場を提供するとともに、京都支部会員だからこそ「こんなのが無料で聞けるの?!」といったテーマも選びながら、会員の相互交流も図り、お役に立てる研究会にしていきたいと考えています。レギュラーメンバーだけでなく、まだ参加したことが無い方も、ぜひ一度気軽にお越し下さい。(岡原慶高)

中小企業診断協会京都支部の行事

◆平成19年12月8日(土) 支部会員研修
13:00～17:00 京都産業会館7階第一会議室
「企業業績のV字回復支援事例」 西河会員
「企業グループのビジネスモデル構築支援」 坂田会員

◆平成19年12月12日(水) 経営革新支援研究会
16:30～20:15 京都産業会館2階ミーティングルーム
「セカンドライフ実演講座、今日からあなたもセカンドライフの一員に!」
講師:株式会社インスパイア 代表取締役 中谷 淳氏

◆平成20年1月18日(金) 中小企業診断協会京都支部新年会
15:00～17:00 新年セミナー
「リレーションバンキングの現状と課題」〈仮題〉
調査研究事業担当会員
17:00～19:00 新年祝賀会
会場は、どちらもメルパルク京都(京都駅前)です。

◆平成20年1月26日(土)～27日(日) 近畿ブロック交流会
26日13:00 京都駅に集合
14:00～17:00 京都学園大学にて勉強会
「産学公連携、地域資源活用ビジネス等と中小企業診断士」(仮題)
17:00～ 近畿ブロック交流会(亀岡:松園荘にて)
27日午前 「社団法人の見直し」に関する意見・情報交換会
昼食
14:00 京都駅にて解散
(注)ご参加は、次の三形態の中から自由にお申し込みください。
費用は、フルコースの場合は3万円です(支部からの補助有り)。
具体的な詳細は、担当までお問い合わせください。

- A. 1月26～27日の全行程に参加する
- B. 1月26日の交流会(夜の部)から参加する。
- C. 1月26日の京都学園大学での勉強会のみ参加する。

◆平成20年2月16日(土) 会員交流会
午後～ 京都産業会館7階第二会議室(予定)
(入会1年～2年の会員&支部執行部の交流)

◆平成20年5月24日(土)
中小企業診断協会京都支部通常総会
14:30～ 烏丸京都ホテル(予定)

その他、研究会活動や行事については、支部のホームページに随時掲載するほか、会員MLにてアナウンスいたします。

編集後記

中小企業診断士を取り巻く環境は、この1年で大きくシフトしていると感じています。昨年からの新診断士制度が動き出し、各診断士の新制度への対応スタンスが、今年はかなり明確になってきました。この大きな流れの中で、中小企業診断協会の組織内からもききみ音がハッキリと聞こえてきます。

加えて診断協会は、国の政策的な方向性からの社団法人見直しの中で、公益社団法人で行くのか一般社団法人で行くのかの意思決定を迫られています。ところが、現時点では各支部の意思ベクトルが揃っていません。本部もまたどちらかの方向を明確にして主導するだけのパワーを発揮できないようです。

新年度は、これらに対して各支部とも自ら内外環境やリソースを明確に把握した上で、進路を確定する必要があるでしょう。今年がシフトの年とすれば、来年は始動の年ということになるように思います。

ところで、京都市、(財)京都市中小企業支援センター、(財)京都高度技術研究所の主催で、11月8～9日の2日間にわたって同様の京都市勤業館「みやこめっせ」において、「テクノ新選組!! 京都中小企業展～いちおしベンチャー・中小企業めじろおし～」が開催されました。この中には、京都支部診断士と関わりのある「企業価値創出支援制度(オスカー)認定企業」が多数出展し、大手企業とのビジネス・マッチングの場も設けられるなど、地元京都の中小企業を応援する良いイベントでした。運営者の努力に敬意を表すると共に、今後このような機会が数多く作られ、伝統産業のまち京都の復活に尽力していただくことを期待しています。

国民生活金融公庫との連携について

従来から進めてきました国民生活金融公庫殿との交流勉強会も今年度は新たな段階に入っており、現在は以下の取組を行っています。

(1)「紹介制度」の開始:

京都支部会員(中小企業診断士)が融資相談企業に対し、国民生活金融公庫(京都・西陣・舞鶴の各支店)への紹介状を提出することで、審査期間の短縮化が考慮されるなど極めて有利となる「紹介制度」がスタートしました。

平成19年10月4日の中小企業診断協会京都支部理事会で承認を得た後、参加希望者だけの「支部会員名簿」を国民生活金融公庫殿へ提出いたしました。その後、数件「紹介制度」の活用も頂戴し、更なる運用実績が期待されます。

なお参加ご希望の支部会員は支部事務局にお問い合わせください。

また、参加支部会員の皆様には主旨をご理解の上、中小企業診断士にふさわしい良識と見識での対処をお願いいたします。

(2) 国民生活金融公庫主催「創業セミナー」

(仮称) 講師募集の結果:

平成19年9月12日に中小企業診断協会京都支部会員メーリングリストにて公募しました結果、

●「財務管理・労務管理のポイント」

(内部管理に関すること) 45分 ⇒ 岡原慶高会員

●「販売管理・販売促進のポイント」

(売上向上策に関すること) 45分 ⇒ 松野修典会員

が、セミナー講師を担当することになりました。(開催日程は未定です)

今回の連携セミナーをきっかけに今後も様々な「お役立ち提案」を行い、連携を深めていきたいと思っています。(上田 清)

会員の異動(平成19年8月～11月)

| | | |
|------------------|------------------|-------|
| 平成19年8月 | 入会(東京支部中央支会より移籍) | 四方 浩人 |
| 平成19年9月 | 入会(静岡支部より移籍) | 山本 東 |
| 平成19年10月 | 新規入会 | 岩橋 亮 |
| 平成19年10月 | 新規入会 | 藤村 正弘 |
| 平成19年11月 | 転出(大阪支部へ転出) | 田中慎太郎 |
| 会員数(平成19年11月末現在) | | 131名 |

診断 京 都

No.86

2007年12月発行

社団法人中小企業診断協会京都支部

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東

京都産業会館内

TEL (075) 213-7980

FAX (075) 213-7981

メール smecakyo@mail.joho-kyoto.or.jp

ホームページ <http://www.joho-kyoto.or.jp/~rmckkyoto>

印刷所 (株)大美堂印刷社 TEL (075) 314-3111

FAX (075) 314-3122